

2018 年度第 2 回入学試験問題

国 語

「始め」の合図があるまでは問題を見てはいけません。

注 意

- 1 「始め」という合図で始め、「やめ」という合図で、すぐに鉛筆をおきなさい。
- 2 問題は 2 ページから 8 ページまでです。
- 3 解答用紙は問題冊子にはさまれています。
- 4 初めに、解答用紙に受験番号・座席番号・氏名を記入しなさい。
- 5 答はすべて解答用紙に記入しなさい。
- 6 字数制限のある問題については、かぎかっこ・句読点も一字と数えなさい。
- 7 文字はていねいに書きなさい。
- 8 質問や用があるときは静かに手をあげなさい。

設問二（5ページ～8ページ）は著作権の関係で、
問題文および設問を非公開とします。

一次の文章を読んで、後の間に答えなさい。

「あ」と、今度は本当に声を上げてしまった。客席はもちろん、舞台にも聞こえなかっただろうけど、近くにいた舞台担当の先生は、何かあったのかと心配してくれた。

「すみません。なんでもありません」

と小声で答える。

「あ」と声を出したのは、大切なことに気がついたからだ。

自分で構成し、自分で大部分の台詞を書いて、そして自分で演出をしてきた舞台なのに、いま、私は、1この作品が何を描こうとしていたのかが、やっと分かった。いや、頭でぼんやり分かっていたつもりだったが、はっきりとした形、はっきりとした音、はっきりとした色、はっきりとした言葉になって、私の中に押し寄せてきた。

ジョバンニは、たくさんの人と出会って2成長をしていく。『みんな卒業をうたおう』の主人公が、先輩を一生懸命好きになることで、他の友だちや学校を好きな気持ちの中心に広がっていったように。

「大人になるということは、3人生のさまざまな不条理を、どうにかして受け入れる覚悟をすることです」

何の授業だったか、ずっと前に滝田先生から習ったような気がする。

ジョバンニは、親友カンパネルラの死を受け入れていく。いや、本当は、夢の中で最初にカンパネルラに出会ったときに、その髪の毛が濡れていたときに、もうジョバンニは、カンパネルラがこの世にいないことは分かっていたんだ。でも、親友を失う辛さ、その理不尽さに耐えるためには、宇宙を一周巡るほどの旅が必要だった。

お母さんは、いつたいていどこまで分かっていて、あの漫画を私にくれたんだろう。

中学二年生くらいから高校一年生くらいまで、だからえっと、十三歳から十五歳くらいまで、たしかに私は、何かに苛立っていた。それはみんな、そういうものなのだろうけど、でも、いまならその苛立ちのaシヨザイが分かる。

私は、何ものにもなれない自分に苛立っていた。

本当は何かを表現したいのに、その表現の方法が見つからない自分を持って余っていた。

もう少し勉強すれば、地域で一番の進学校にも行けたのに、通学の長さを理由に、行きやすいままの学校を選んだ自分が嫌いだった。

演劇は、そんな私が、やっと見つけた宝物だった。

でも、その宝物を大事にしない演劇部の先輩たちに苛立っていた。

いや、その苛立ちが、自分の身体のどこにbスくっているのかさえ気がつけない自分のことを嫌っていた。

それでも私は、吉岡先生に出会い、中西さんに出会い、ううん、もつとの前から、ユッコやガルルや、そしてわび助に出会っていた。溝口先生も滝田先生も、お母さんやお父さんやおばあちゃんも、それからこの一年の間に観たたくさんのお芝居や詩や本たちも。

気がつくと、舞台は、私が大きく書き換えた二つ目の場面を迎えていた。灯台守も消えて、ふたたび、ジョバンニとカンパネルラは二人きりになる。

カンパネルラ　ねえ、ジョバンニ、宇宙はどんどん膨らんでいて知ってた？

ジョバンニ　なに？

カンパネルラ　宇宙はどんどん、生まれたときから、どんどん膨らんでるんだ。

ジョバンニ　どういうこと？

カンパネルラ　だから、4僕たちはどこにも行けない。どこまででも行ける切符を持っていても、宇宙の端にはたどり着けない。

ジョバンニ　カンパネルラ、

カンパネルラ　僕たちはいつも一緒だけど、でも僕たちは離ればなれだ。

ジョバンニ　どうして？

カンパネルラ　宇宙が膨らんでいくように、僕たちの間も広がっているんだ。

ジョバンニ　そんなことないよ、だって、

カンパネルラ　本当だよ、

ジョバンニ　そんなことない、だって、ほら、(ジョバンニ、カンパネルラの手を握る)ほら、僕たちは、こうやってつながっている。

カンパネルラ　……うん……うん、そうだった。

ジョバンニ　僕たちは、いつもつながっている。

「早く終わって」と思った地区大会の時と違って、ああ、もうこの時間が、ずっと続けばいいのにと私は思った。

この舞台には「等身大の高校生」は一人も登場しない。たぶん、そんな人は、どこにもいないから。現実の世界にも、きつと、いや絶対、いないから。進路の悩みや、家族のこと、いじめの話も一つも出てこない。

こっちはもちろん、現実世界にはあることだけど、やっぱり私たちの、少なくとも、いまの私の現実ではない。

私にとつては、この一年、演劇をやってきて、とにかくいい芝居を創るために悩んだり、苦しんだり、友だちと泣いたり笑ったり喜んだりしたことの方が、よっぽど、よっぽど現実だ。この舞台の方が現実だ。

そうだ！ 思い出した。高校二年生の時の滝田先生の現代文は、夏目漱石の『三四郎』を一学期かけて読むという授業だった。

「熊本より東京は広い。東京より日本は広い。日本より……、日本より頭の中の方が広いでしょう」

私たちは、舞台の上でなら、どこまででも行ける。どこまででも行ける切符をもっている。私たちの頭の中は、銀河と同じ大きさだ。

でも、私たちは、それでもやっぱり、宇宙の端にはたどり着けない。私たちは、どこまでも、どこまでも行けるけど、宇宙の端にはたどり着けない。

どこまでも行けるから、だから私たちは不安なんだ。その不安だけが現実だ。誰か、他人が作った5ちつぽけな「現実」なんて、私たちの現実じゃない。

私たちの創った、この舞台こそが、高校生の現実だ。

やがて、出演者全員が死者となつて舞台上に登場し、カンパネルラは、その渦の中に巻き込まれる。サザンクロス駅の駅で、二人は離ればなれになる。

再び、眠りにつくジョバンニ。

ジョバンニは、どこまで覚悟をしたのか。

私は、どこまでの覚悟をしたのか。
たぶん私は、私たちを裏切った吉岡先生を許さない。もつと大人になつても、それで、この三週間の出来事を受け入れられるようになるとも思わない。でも、それでも私は、私たちがのれを去っていった吉岡先生を恨まない、憎まない。

ジョバンニだって、カンパネルラの死をすべて受け入れたわけじゃない。

でもジョバンニは、カンパネルラのお父さんの、別れ際の最後の言葉を忘れないだろう。大人になるということの辛さを、いまのジョバンニならきつと理解できるから。(中略)

袖にはけてきた父親役のわび助が、私のそばにやってくる。ゆつくりとハング帽を脱いで、私のcナナめ後ろに立つ。

私とわび助は、並んで、舞台上のジョバンニを見つめる。

ジョバンニが、ユッコが、ゆつくりとキューブの上に立った。
ここが、最後に私が増やした台詞だ。

ジョバンニ カンパネルラ、僕は今日の学校での最後の時間、本当は眠っていませんでした。いや、眠っていたのだけど、君の声に起こされた。

君は僕をかばってくれたけど、でも君は、君と僕は一つではないと言った。僕は、とても悲しかった。悲しかったけど、本当にそうだと思った。どこまでも、どこまででも一緒に行きかけた。でも、一緒にいけないことは、僕も知っていたよ。

カンパネルラ、僕には、まだ、本当の幸せが何か分からない。宇宙はどんな広がりがある。だから、人間はいつも一人だ。

つながっている、いつも一人だ。

人間は、生まれたときから、いつも一人だ。

でも、一人でも、宇宙から見れば、みんな一緒だ。

みんな一緒でも……みんな一人だ。

遠くの高く積み重ねたキューブの上に、カンパネルラが立って手を振っている。

ジョバンニ カンパネルラ！
カンパネルラ …………… (クルミを叩く)
ジョバンニ クルミだ！ (ジョバンニも、ポケットの中からクルミをさがし出す) このクルミは、6たしかに僕の手の内にある。カンパネルラ、僕も、ずっと持つてるからね。

※カンパネルラ、手を振る。

ジョバンニ カンパネルラ！
また、いつか、どこかで！

大きく手を振る二人。

照明が消え、二人は、プロジェクターから映し出される銀河の中に吸い込まれていく。

私はゆっくりと、緞帳を下げるボタンを押す。

上がっていくときは、あんなにもすると上がっていったはずの緞帳が、

いまは終演を惜しむかのようにゆっくりと下りてくる。

手を振り続ける二人。

幕が下りた瞬間、いままで自分が聞いたこともないような拍手の音がした。

(平田オリザ『幕が上がる』(講談社)より)

(注) 吉岡先生…生徒に慕われていたが突然、演劇部の顧問を辞めた。

問1 傍線部 a、b、c のカタカナを漢字に直しなさい。

問2 傍線部 1 「この作品が何を描こうとしていたのかが、やっと分かった」とありますが、それは何ですか。本文中より五字程度で書き抜きなさい。

問3 傍線部 2 「成長をしていく」とありますが、「私」の場合どのように成長をしましたか。その内容を説明するものとしてふさわしくないものを次から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 演劇表現の無限の可能性に気づけるようになった。

イ 舞台は自分の思い通りに書き換えられることを発見した。

ウ 自分を持って余っていたが、演劇と出会い表現方法を獲得した。

エ 舞台の本番になって、ようやく作品のテーマがはつきりと意識できた。

オ 自分の不満の要因が分かるとともに、様々な出会いの大切さに気づいた。

問4 傍線部 3 「人生のさまざまな不条理を、どうにかして受け入れる覚悟」

とありますが、それは「ジョバンニ」と「私」の場合それぞれどういう覚悟ですか。①「ジョバンニ」について、解答欄に合うように本文中の言葉を置いて五字以内で書きなさい。②「私」については、解答欄に合うように本文中の言葉を置いて二十五字以上三十字以内で具体的に書きなさい。

問5 傍線部 4 「僕たちはどこにも行けない」とありますが、これは「私たち」のどういう気持ちを反映していますか。その内容を説明したものと最もふさわしいものを次から選び、記号で答えなさい。

ア 「私たち」の進路が定まってゆくにつれて、将来の可能性が徐々に狭まってしまわないかという疑い。

イ 「私たち」と吉岡先生にはわだかまりがあるために、その溝が埋められずに師弟関係が終わってしまうという寂しさ。

ウ 舞台の上ではどこにでも行くことができる想像力の自由があるために、かえって「私たち」はその答えが見つからないという不安。

エ 舞台上上がった「私たち」は何でも表現することができるが、上演中の舞台もしまいには終わり皆が離ればなれになるという心配。

問6 傍線部 5 「ちっぽけな『現実』」とありますが、この「現実」に出てくるのはどのような話題ですか。その内容を説明したものととしてふさわしくないものを次から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 親子や姉妹といった家族関係の中でさまざまな葛藤を抱えること。

イ 悩み苦しみながらも、友人たちと一生懸命に創作活動をしてきたこと。

ウ 高校卒業後の進路について、大人に相談して答えを探そうとすること。

エ いやがらせを受けているが、教員や家族に相談できず一人で苦しむこと。

問7 傍線部 6 「たしかに僕の手の中にある」とありますが、これは何を意味しますか。解答欄に合うように、劇中の台詞より十五字で書き抜きなさい。

二 次の文章A・Bを読んで、後の問に答えなさい。

設問二（5ページと8ページ）は著作権の関係で、
問題文および設問を非公開とします。

設問二（5ページ）と8ページ）は著作権の関係で、
問題文および設問を非公開とします。

設問二（5ページと8ページ）は著作権の関係で、
問題文および設問を非公開とします。

設問二（5ページと8ページ）は著作権の関係で、
問題文および設問を非公開とします。

「以下余白」

2018年度 第2回	国語	受験番号		座席番号		氏名

問 8

「へいけがに」のイ

けだつたという結論を突きつ

問 7 「へいけがに」の甲羅の様子は、ア ではなく、

問 5

問 6 Y
Z

問 3
問 4 a
b
c

問 二 1
問 2 ア
イ
ウ

問 7

という意味。

問 5
問 6

25
30
覚悟。

問 4
①
を少しずつ受けとめる覚悟。

問 2

問 3

問 一 1 a
b
くって c
め

合計